

cue

05

WODTEC 朝日ウッドテック株式会社

〒541-0054 大阪府中央区南本町4-5-10 TEL.06-6245-9505 発行／平成29年10月1日

特集

動き出す空

床の記憶
MESSAGE FROM FLOORS.

45

実家は築46年、昭和時代の木造住宅です。

台所の床は無垢材で、
幼い頃はよくビー玉を転がして遊んでいたものです。

そのうち節が抜け落ち穴ができ、
ビー玉を転がしては節穴から落とす遊びに変わりました。

冷たい風を感じる節穴から床下を覗くと、
薄暗い中でビー玉が神秘的に輝いていたのを
今でも記憶しています。



光り輝くマホガニー。ミラノサローネ2017より

今年のミラノサローネ（毎年4月にイタリア・ミラノで開催される世界最大の家具見本市であり、インテリアとデザインにおけるトレンドの発信地）は、昨年と比較して目立ったトピックスが少なかったと言われています。しかし、トレンドには少なからず変化があり、木質における傾向の一つにマホガニー、ローズウッド、パリスンダーといった赤系樹種の増加、そして、それに伴う躍動感のある木目使いが挙げられます。なかでも印象的であったのが、世界のトップブランドの一つであるFLEXFORMがみた光り輝くマホガニーのローテーブルでした。

そこで、今回は、光を受けてダイナミックに動き出す木目模様、「奎」をテーマにお届けします。

（文・西村）

13ページからミラノサローネのレポート記事があります

杳

【もく】

木材の木目・木理のうち、
柃目とも板目とも異なって
稀に現れる複雑な模様のも
のを指す。その希少価値・
審美的価値から珍重される。

天然木の意匠面における魅力を一言で表すと

「木味」^{きあじ}になるのではないだろうか。

樹が長い年月をかけて創り出した木目模様の妙、
経年で深みを増す色艶。

それは、自然が織りなす唯一無二のデザインです。

なかでも光を受けることで現れる特有の光沢「照り」は

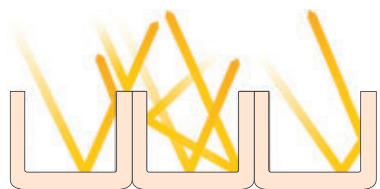
天然木の意匠的特徴の一つで、

「杳」には、その特徴を備えたものが多くあります。

特集

動き出す杳

細胞内部の光の反射（イメージ図）

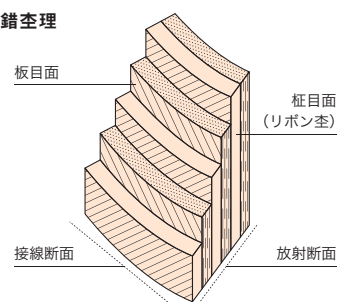


右の写真は、材とカメラを固定し、照明方向を変えて撮影したもので、「照り」の移動が現れている。この現象は木材の3次元的な組織構造に起因している。



光が当たる方向によって変化する表情「Live Natural PREMIUM RUSTIC オーク」

交錯変理



細胞の縦方向の配列が、いくつかの年輪層ごとに交互に反対方向に傾斜している木理。なぜ傾斜するのかについて、一説には、赤道直下で太陽の方角が季節により入れ替わることで木が迷ってしまうからと言われています。



見る方向によって濃淡が逆転するサペリのリボン杢



光を受けて光沢を放つ床「Live Natural PREMIUM ハードメイプル」

木目のゆらぎ

朝の太陽光や照明に照らされてキラリとゆらぐ木目の美しさに心を打たれた経験はないですか？木肌が光を受けて放つ光沢「照り」は鏡や金属のように眩しい輝きではなく、あくまで優しく柔らかく、見るものの心を癒やしてくれます。

「天然木がなぜ人に「癒やし」を与えるのか。それは太古より木と共に生活してきた記憶が人のDNAに刻まれているからだと言われますが、科学的に考えるといくつかの理由が挙げられます。

ひとつは、木の色が「暖かい」「和んだ」イメージを与える暖色と呼ばれる色相にほぼ含まれており、見た目に暖かいことです。また、木目となる年輪幅が年ごとの気候変動を反映して微妙に広くなったり狭くなったりしており、人に快適感を与える「1/fゆらぎ」と呼ばれる自然なリズムを持つていることも理由として挙げられます。

そして、その「ゆらぎ」という点では、光の照射方向や見る向きによって表情が変化する天然木特有の光沢「照り」が重要なポイントではないかと思えます。この「照り」という現象が起こるのは木材の3次元的な組織構造に起因しています。もともと生命体であったため、木材

は細胞の集まりです。その細胞の細胞壁に光があたり乱反射することで独特の光沢「照り」が現れるのです。

また、木材の軸方向に対する細胞（道管、仮道管、木部繊維）の並び方を木理と呼びます。例えば、細胞の縦方向の配列が、いくつかの年輪層ごとに交互に反対方向に傾斜している木理を交錯木理と言いますが、この交錯木理の柃目面に現れる濃淡の縞模様「リボン杢」は、見る方向によって濃淡の逆転現象が起こります。

このように、光の照射方向や見る方向によって表情が変化するのには、細胞という複雑な組織構造を持つ天然木ならではの特徵で、人工物ではなかなか再現できるものではありません。

木目模様は、年輪内に形成された明暗の変化が二次元のパターンとして現れたものです。基本形は、柃目と板目ですが、生物体としての多様性（組織構造の相違、異常組織の発生など）を反映して、様々なバリエーションが現れます。稀に現れる審美性の高い模様は、しばしば「杢」と呼ばれ、建材や家具、工芸品などに活かされてきました。そして、天然木ならではの光沢「照り」は、その「杢」に顕著に現れます。



当社に保管されるケヤキの玉杓。杓が3Dのように浮かび上がって見えるが、実際はフラットな表面。右は65周年フェアでの展示の様子

今号の表紙に使った写真は、霜寅商店時代から今も当社に保管されるケヤキの玉杓です。昭和29年、愛媛県の三嶋神社のご神木とされていた天然記念物級のケヤキが台風によって倒れ、本殿並びに拝殿に倒れかかり大破する被害が発生。その復興再建のため、ご神木が伐採されたのですが、それを買い付けたのが霜寅商店でした。

現地に木挽き職人を4〜5名派遣し、盤木にして船便と木材燃料の2トトラック数十台で大阪に搬送したそうです。そのうち、全面玉杓・最大幅の逸品を記念品として保管することになったのですが、それがこのケヤキ玉杓の板です。

写真のように、玉杓とは、連環や渦巻いた波のような模様が材面に現れたもので、いわゆる皮肌に「コブ」のある木から取れるのですが、複雑な杓は3Dのように浮き上がって見えます。特にケヤキの玉杓は有名で、500年以上経った老齢の大径木からたまにしか得られず、それゆえに非常に高価な値がつき、この当社の玉杓の板は、金額にして数千万円の価値があると言われています。

立体的に浮かび上がる玉杓



淡路の大杉伐採に立ち会う創業者 海堀寅造



寅造は、材料を大切にする人で製材に立ち会う時は、丸太の前で手を合わせて拝んでから製材していた



創業当時の霜寅商店

材面の鑑賞的価値が極めて高い杓の出る板、杓板はいわゆる銘木と呼ばれますが、杓の出方によって材の値段が大きく変わり、また大径木にならないと良い杓がでないこともあり、高値で取引されてきました。

銘木は、地板、床柱などの床の間廻りの装飾材、鏡板、天井材、指物材など高い装飾性を求められる部位に使われてきました。それらの銘木を取り扱うのが「銘木商」で、当社は、その銘木商のDNAを受け継ぐ会社です。

慶長年間（1600年前後・江戸幕府創設前後）からの老舗銘木商であった檉甚（霜井商店）より「のれん」を受け継ぎ、1912年（大正2）に海堀寅造が創業した「霜寅商店」が、朝日ウッドテックのルーツです。大阪の銘木業界でも中心的な存在であり、ほかの銘木商からも「後継ぎを修行させるなら霜寅で」と言われるほど信用の厚い店でした。

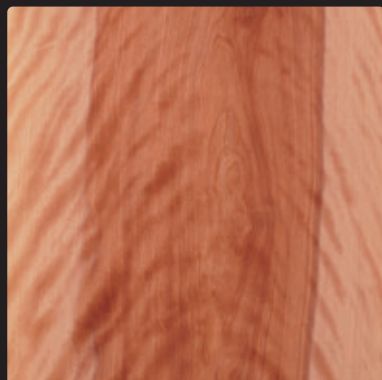
創業者の寅造は銘木の目利きで、特に杉の目利きとしては日本で右に出るものはいないと言われていました。それゆえ、日本中の銘木の伐採情報や風倒木（台風や雷でご神木が倒れるなど）の情報がいち早く寅造のもとに届き、すぐに現地で買い付けに参加することができました。

杓と銘木

光り輝く杣

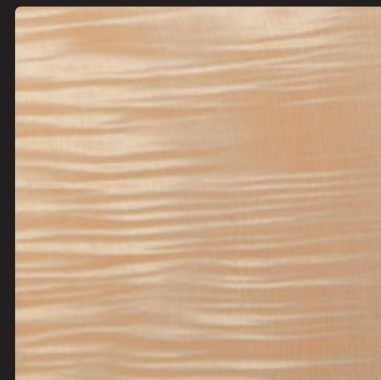
数百年、ときには数千年という長い年月をかけて作り上げられる「杣」は、まさに自然が作り上げる芸術作品。
ここでは、「照り」を伴って光り輝く代表的な「杣」をいくつかご紹介します。

＊ 同じ杣（模様）でも、地域、分野、用途によって様々な呼び方があります。
[写真協力 虎杣・瘤杣…株式会社関家具工房木馬／金欄杣…金子銘木工芸 金子泉]



虎杣（とらもく）

虎の縞のような模様をした杣。ミズメザクラやマカバ、イエローバーチなどに現れる。オークなどの柾目面に現れる放射組織の断面、「虎斑（シルバーグレイン）」とは別。



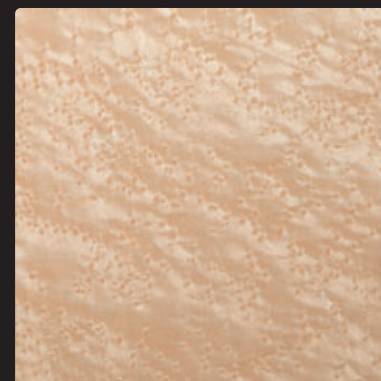
縮み杣（ちぢみもく）

波状木理によって現れる、独特な光の反射を持つ横縞の杣。波状杣、カーリー杣とも言う。主に内装材や家具に用いられるが、イタヤカエデやシカモアの柾目面に現れる縮み杣は、バイオリンの背板に用いられることから「バイオリン杣」とも呼ばれる。



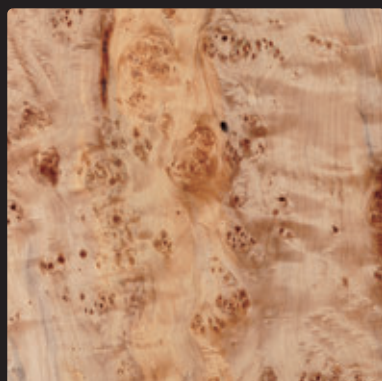
リボン杣（りぼんもく）

主に熱帯材の交錯木理の柾目面に濃色と淡色の縞模様が現れるもので、マホガニーやサペリのリボン杣が特に有名。見る角度によって濃淡が逆転し、ゆらぎのある美しい表情を生み出す。



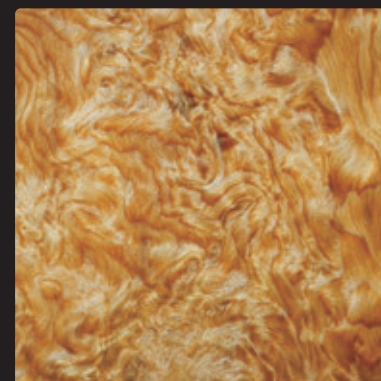
鳥眼杣（ちょうがんもく）

樹心近くから樹皮方向に伸びる「不定芽」や「葉節」などによって、板目面に鳥の小さな丸い目が無数にあるような表情をつくる杣で、バーズアイともいう。ヤチダモなどでは材の欠点とされるが、カエデ類の鳥眼杣は珍重される。



瘤杣（こぶもく）

成長時の異変によって根の近くや幹にできる瘤（バール）を挽いた時に現れる。変化に富んだ非常に美しい杣で装飾的評価が高い。ポプラ類、ウォルナットなどで見られる。



金蘭杣（きんらんもく）

アカマツやクロマツなどの樹脂分が多い老齢木を肥松（コエマツ）というが、それらの板目の裁断面に現れる、力強く明瞭な杣。地板などの床の間廻りに使われる。蟹の甲羅の模様に似ているため、蟹杣とも呼ばれる。

空間の魅力を増幅する床の杳

床に天然木フローリングと精巧に木目を再現した印刷シートのフローリングを貼り比べると、私たちはその部屋に入った瞬間にその違いを感じ取ります。それは、足触りの違いだけでなく、素材が醸し出す空気感の違いを視覚的に感じ取るからです。どんなに高性能なカメラでも、網膜ほど高性能な感光膜（光を感じ取る）は持ち得ないだろうと言われているほどに、人の眼は見る向きや光の当たり方で変化する「杳」や「照り」の「ゆらぎ」を敏感に感じ取ります。

今、デザインにおいて「デジタルとオーガニズム（生命）」が大きなテーマとなっています。すべてのものがインターネットに繋がるIoTが進み、生活が大きく変わっていく中で、人と物、空間との関わり方は大きく変化していきます。暮らしが便利になっていく一方で、ゆつくりと安らげる場所や時間が少なくなるという弊害も出てきており、空間にどうやって癒やしの要素を取り入れていくかはインテリアの大きなテーマとなっています。

そこで今、自然が織りなす「ゆらぎ」が人のための心地よい環境として見直されてきています。日本人は、変化こそ永遠であるという思想を生み出しましたが、近代はすべてのものを固定化してしまいました。しかし、本来自然の作り出すものは、「不定形なもの」であったり、「揺らいだもの」です。それゆえに、人は天然木の動き出す「杳」や「照り」に驚きと愛着と心地よさを感じるのです。そして、大きな面積を占める床面において、その「ゆらぎ」は、空間全体の空気感を大きく左右するほどに重要なポイントとなります。

皆さんも、動き出す「杳」のある空間に住んでみたことはありませんか？

[参考文献]

「新・木のデザイン図鑑」エクスナレッジ 2009

社団法人 日本林業技術協会 編「木の100不思議」東京書籍 1995

内田繁「普通のデザイン」工作舎 2007

リボン杳が生み出すゆらぎのある表情
「Live Natural PREMIUM サベリ」

ミラノサローネ2017 レポート

年々注目度を増す世界最大規模のデザインイベント

「Salone del Mobile Milano (ミラノサローネ)。

今年も本会場には約2,000社の企業が出展、

市内各所で開催されるフォーリサローネには
400を超えるブランドが参加しました。大きな傾向としては、

ベーシックでタイムレスなデザインが今年のトレンドで、

目を見張るような奇抜なデザインは少なかったようです。

また、例年以上に家具単体ではなく
空間として提案するブランドが多く見られたのも特徴でした。

それでは、インテリア全般のカラートレンド、

そして建材メーカーの視点でみた、

木質トレンドについて報告いたします。

Color
Trend

アースカラーに 強めのカラーを加えた エスニックカラー

今年のカラートレンドを一言で表現するとエスニックカラーです。ベイスは、昨年、昨年に引き続き、グレー、ブラウン、ベージュ系のアースカラー(砂や石といった大地や木の幹の色)ですが、そこに組み合わせられるカラーが昨年よりも濃い色目で、また大きな面積で使われていました。アソートカラー、アクセントカラーとして加えられるのは、赤、オレンジ、イエロー、ブルーグリーン、ピンクでいずれもファッションのカラートレンドと連動しています。

右ページ下のように、代表的なブランドのブースの写真を集め、並べて比較するとトレンドの変化を確認できます。先行するファッショントレンドが、ファブリックやテキスタイルだけでなく、その他の素材にまで影響していくというトレンドの流れをあらためて実感しました。



poliform



poliform



Molteni&C



GIORGETTI



Minotti



Molteni&C



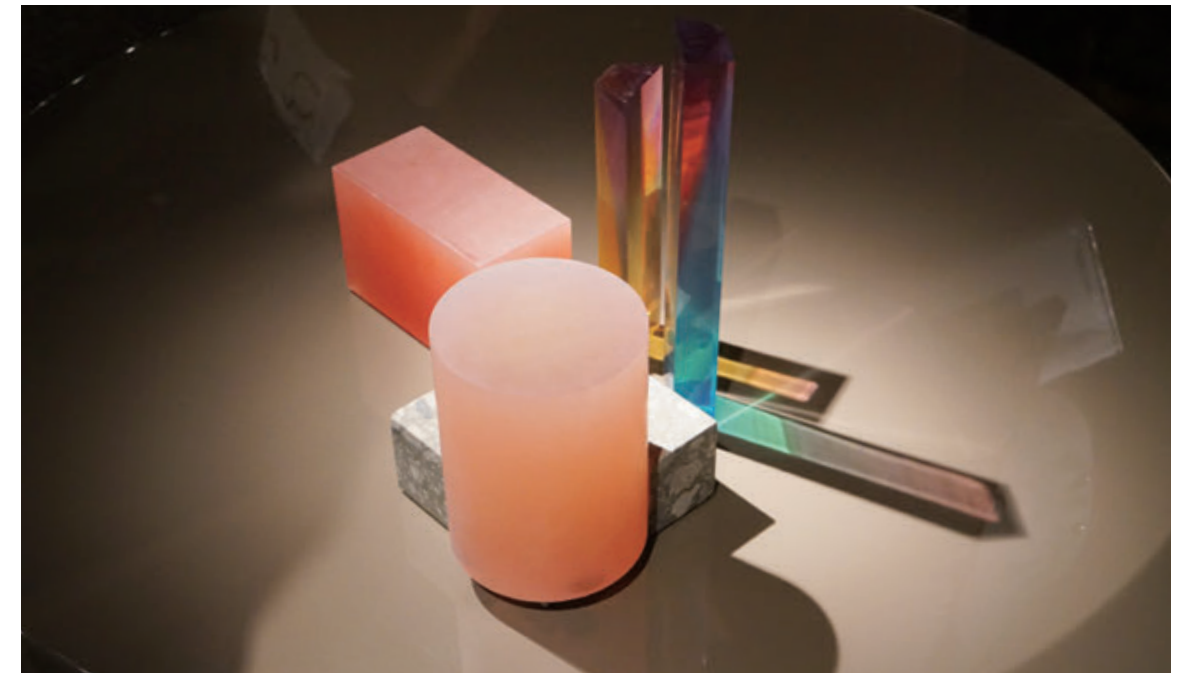
Cassina



flexform

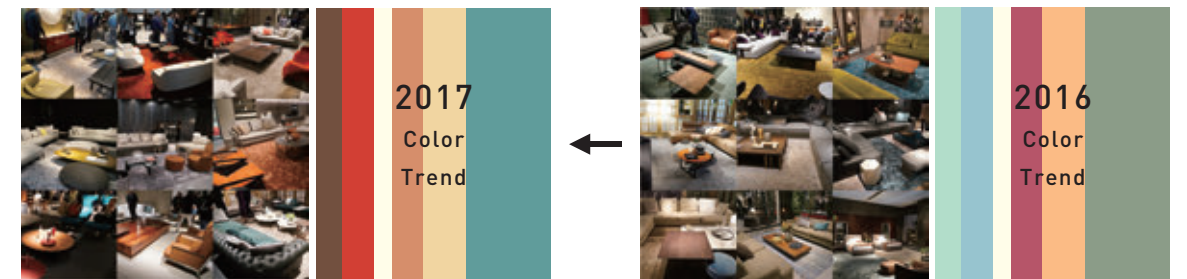


Poltrona Flau



昨年世界のトップデザイナー、パトリシア・ウルキオラがアートディレクターに就任したCassinaのショールームでみたオブジェ。今年のカラートレンドを象徴する。

2017年と2016年のカラートレンド比較 (右のカラーの帯はファッションのカラートレンド)



赤系樹種の台頭と
躍動感のある木目使い

木質においては、今年も、オークとウォルナットの二大樹種で60%以上を占めるトレンドが継続しています。また、一昨年頃より出てきたユーカリは定番化してきました。昨年と違うのは、赤や、オレンジ、カッパー色といったカラートレンドに伴い、マホガニーやローズウッド、パリスンダーといった樹種が出てきたことです。そして、それらの樹種では、天然木ならではのダイナミックな「歪」や「照り」を効果的に使い、素材の持つ躍動感を演出していました。昨今、ヨーロッパにおいて、石目はセラミックのグラビア印刷が少しずつ増えている反面、木目のプリントは後退していると言われるのは、木が有機体（生物）であるため、本質的に人工物には置き換えできないからではないかと思えます。

人が心から安らげる空間づくりに、本物の「木」の「素材感」が今まで以上に求められる時代の到来を感じた、今年のミラノサローネでした。



ニュージーランドの50,000年前の木がレジンに封入された壁かけオブジェ。「Riva1920」



『ミラノデザインアワード2017』最高賞を受賞した、吉岡徳仁とLGとのコラボによるインスタレーション『Senses of the Future』。



パリスンダーのテーブル「Porro」



マルセルワンダー率いるmooodi。これまで発表した照明を集めて大きなシャンデリアに見立てた展示を発表。



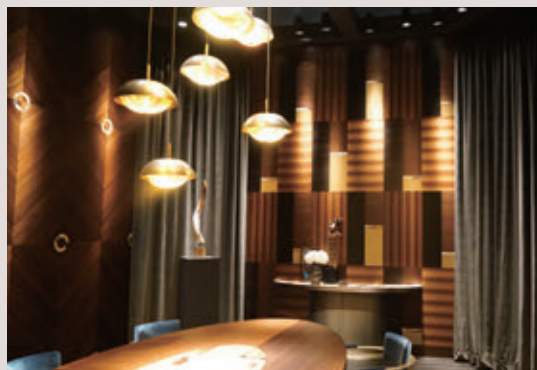
ローズウッドのテーブル「Molteni&C」



市内で大きな注目を集めたLOUIS VUITTON。「旅」をテーマとした作品を展示。



輪郭の抽出をテーマとしたnendoの個展「invisible outlines」会場にて、当社床材のデザインを手がけた佐藤オオキ氏と再会。



一昨年よりできた「xLux」ブースにて。美しい象嵌の壁「ARCAHOEN」



ローズウッドの壁面収納「LAURAMERONI」



ユーカリのチェスト「Molteni&C」



パリスンダーの壁面収納「Porro」



マホガニーのローテーブル「FLEXFORM」

レッドシダー

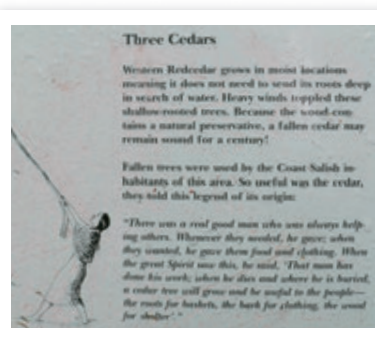
産地・分布：北米北西部の太平洋岸

学名：Thuya plicata

分類：ヒノキ科ネズコ属

樹高：40～80m近く

樹径：1～2 m以上

用途：外装材、内装材、ウッドデッキ、
カヌー、ミツバチの巣箱濃淡のグラデーションが
美しい壁材

レッドシダーは、主産地であるカナダ・ブリティッシュコロンビア州では原住民から「生命の樹」と呼ばれ、信仰の対象とされていました。バンクーバー島にある公園のプレートには、こう記されています。

ウェスタンレッドシダーは湿潤な場所に育つため、水を探さなくてもよいので、深く根を張りません。強い風はこの根の浅い木を倒しますが、ウェスタンレッドシダーは防虫成分を含むため、風で倒れても一世紀もの間腐らずその姿を保ちます。
倒れた木はこのあたりのコーストサリッシュの住人たちによって利用されてきました。ウェスタンレッドシダーの使い道の多さから、彼らはその起源の伝説を語り継ぎます。
「いつも人助けをしている本当に善良な男が居ました。人々が求めればどんなときでも食料と衣服を与えました。偉大な精霊がそれを見てこう言いました。「この男はすばらしい行いをした。彼が亡くなって葬られたならば、そこには杉の木が育ち、人々に活用されるだろう。根はカゴに、樹皮は衣服に、幹は家屋に。」

【参考図書】世界木材図鑑／新・木のデザイン図鑑

レッドシダー（ウェスタンレッドシダー）は、カナダ・北米の太平洋岸地帯に生育する針葉樹の大木です。日本語では米杉と訳されますが、実際はヒノキ科に属する木です。

シダーと名に付く木はいろいろありますが、真正のシダーはマツ科で、アルジェリア・モロッコ・西ヒマラヤ・インドに生育していて、その強めの芳香が似ているために、他の針葉樹に（一部広葉樹にも）シダーという名が付いたと言われています。日本のシダー・杉は皆さんにはなじみ深い木ですが、世界で同じスギ科の木としては北米西海岸の巨大樹木セコイア（ジャイアントレッドウッド）があります。ヒノキ科のレッドシダーと同類の樹木ではイエローシダーがあり、レッドシダーに近い地域に分布している淡黄色木材の木です。

レッドシダーは、木理は通直、辺材は赤褐色で心材は淡黄色。気乾比重は0.37で、軽軟で強度は低いですが、耐久性に優れた木です。「腐りにくい」「防虫・殺菌力がある」「軽量」「寸法安定性が高い（水分による収縮率が低い）」「加工し易い」「表面仕上りがきれい」「香りが強い」という特性があります。

木材の中では耐久性の高いその特性から、エクステリア用材として多用されています。ウッドデッキやフェンスなどで、無塗装で使用しても10年20年は保つとされています。コテージなどの外壁によく使われる材料ですが、外装用の塗装をすればより長持ちさせることができます。

その整った木目と、赤味と白味の濃淡の変化を活かした壁や天井などの内装材は、独特の表情をもち、自然感豊かなインテリア空間を形作ります。

（文・脇）

知っていると役立つ
床のおはなし

床

知ってこそ知識

フローリングって滑るからキケンなの？



フローリングの永遠の課題として「滑る」という宿命があります。

今年6月に内閣府から発表された「高齢社会白書」によると、高齢者による身体事故は、その7割程が住宅の中で起きているという結果が出ており、その中でもとりわけ居室や階段などでの歩行時の転倒、転落が多いとの事。私共のショールームでもバリアフリーを目的としたリフォームでお見えになる方が増え、床材の滑り具合に関するお問合せも多く耳にします。

しかし、転倒事故は必ずしも全てが「滑り」に起因するとは限りません。滑らな過ぎる「つまづき」による転倒も考えられるので、単に滑りにくいフローリングを作れば良いと言うことではなく、バランスが肝要となります。

実は、JASのフローリング規格には、現状「滑り」に関する基準がありません。ただし、日本建築学会による推奨値がありますので、その数値を参考にして、最終的にはメーカーごとに長年の経験や知見を加え、フローリングの塗装や仕様を決めています。

また最近ではベッ ト共生住宅など様々なニーズに対応すべく、建材メーカーは「表面の滑り具合」について日々研究と研鑽を重ねております。

（文・田中）

日本テレビ系情報・バラエティ 『ヒルナンデス!』で紹介された 「適床適所」の家 TOMO設計室 佐藤 静さん ご自宅

日本テレビ系列のお昼の情報・バラエティ番組「ヒルナンデス!」。2017年4月4日放送の「女性一級建築士のお宅覗くンデス!」コーナーにご出演され、ご自宅にご採用の当社床材をご紹介頂きましたTOMO設計室 一級建築士事務所の佐藤 静さんにお話を伺いました。

ヒルナンデス!にご出演されて、反響はありましたか？

自宅のこだわりポイントを紹介する内容でしたが、一番反響があったのは、ママ友です。「とても参考になった」と言って頂け、今でも続いています。私自身、建具の納まりや外壁の選び方など当たり前だと思っていたことを参考になったと言って頂き、一般の方が知りたいと思っていることに差があったのだと気付かされました。ヒルナンデス!との打合せ時にも、私がこだわったところと視聴者目線で伝えたいところは違うということを感じましたね。

当社のライブナチュラルプレミアムをご採用いただいた経緯を教えてください。

お手入れのことを考え長い目で見ると、無垢に比べて複合フローリングのほうがいいだろうと思っていました。ただ、複合フローリングの味気ない感じが嫌で、モデルルームを色々見て探していました。何度か見かけて気になったのが、ライブナチュラルプレミアムでした。複合フローリングなのに無垢の質感で、これしかない!と思いました。

1階と2階でフローリングを使い分けられていますね。また、実際に住んでみていかがでしょうか。

そうですね、ライブナチュラルプレミアムは床暖房を入れているLDKに使っています。また、子ども部屋のある2階には突き板のハードメイプルを使い、明るい雰囲気になっています。1階をこだわった分、2階は天然木を使いながらもコストを抑えています。もし、ワンランク落とした他の床を使っていたら全然違う雰囲気になっていたでしょうし、あの時ライブナチュラルプレミアムを選んでいればと後悔し続けることになっていたと思います。

最後に一言お願いします。

住宅は店舗等に比べて、床の重要度が高いと日頃から思っています。人の視線はまず床から入るので、お施主様とはフローリングを選ぶことから始め、そこからお客様の求めるテイストを感じ取りコーディネートをしています。高くてもお施主様自身が気に入ったものを選ばれた時は住まわれてからも満足度が高いです。ぜひショールームで色々なものを見て、触れて、考えて、自分で決めた「これが欲しい!」と思うものを見つけられたら、家づくりの満足度も向上すると思います。

(文・大西)



2階の子ども部屋。
「適床適所」の考え方で、子ども部屋には
突き板のLive Naturalハードメイプル3Pをご採用。
自然光も入り、明るい雰囲気。



新築時のLDK。
Live Natural PREMIUMブラックウォルナット2Pをご採用。
ブラックウォルナットの色合いを邪魔しないように、
巾木や建具の枠を白色で統一したのもこだわったポイント。



3年経過したLDK。
経年により、飴色に変化して、深みを増したブラックウォルナット。
「気づかないうちに変わっているんですね。」と佐藤さん。



一級建築士
佐藤 静
10年間建設会社で住宅の設計業務にあたる。結婚を機に独立され、TOMO設計室一級建築士事務所を開設。出産、子育てのため、一時は主婦業に専念。2013年から再開し、現在はご夫婦でリノベーションを中心に、専業主婦経験を活かした提案で数多くの物件を手がけられています。

＼ヒルナンデス!ご出演の裏話／

3月に出演依頼があったのですが、年度末でお子さんの卒業式、入学式等で多忙だったこともあり、1回はお断りしたそうです。後日、断ったことを知ったお子さんから怒られたとのこと。渡部さん、SHELLYさん、八乙女さんの滞在時間は2時間ほどだったようですが、お子さんは大喜びで、帰った後も有名人が来たということで大変な騒ぎに。放送では知り得ない様子を教えてくださいました。

定期購読をご希望の方は、
「cue定期購読希望」とタイトルに入れて
ご住所・お名前・電話番号を
info2@woodtec.co.jpまでご連絡ください。

御岩神社のご神木「三本杉」。
三又のところに天狗様が住むと言われる
樹齢500年以上の巨木です。

編集後記



TVでも取り上げられ話題となったパワースポット、日立市の御岩神社に行ってきました。かつて、アポロ14号の宇宙飛行士が宇宙から地球を眺めたときに、1か所ものすごく光って見える場所があり、その緯度・経度を計測したら、この御岩神社のある場所だった、など数々の逸話があります。気になった方はWebで検索してみてください!(西村)



ほんとに暑かったこの夏、さんざんビールを飲みまくりました。ビアガーデン、ビールイベント、クラフトビール巡り。特に休みの日に昼間から飲むのが格別です。ビールだと何であんなにたくさん飲めてしまうのか。最初の1杯の早いこと。おかげでお腹は膨れ、血糖値は上がり、そのリカバリーに、ささやかですが毎日7000歩以上歩くことを日課にしています。(脇)



お盆の時期に地元の岡山に帰ってきました。「晴れの国おかやま」だけあって快晴で、青い空と青い瀬戸内海。そして夜は同時に3ヶ所、対岸の高松の花火大会まで見ることができました。アートの島で有名な直島(隣の香川県ですが)も近いので、直島にお越しの際はぜひ岡山を經由してはいかがでしょう。(大西)



新居へ移ったことをきっかけに、自宅のインテリアコーディネートを楽しんでいます。少し暑さも和らいできた今日この頃、久しぶりにベランダでガーデニングを始めました。現在我が家にはモンステラとコウモリラン、そして食虫植物のウツボカズラが元気に育っていますが、この秋はもう少し女性らしくハーブや野菜も取り揃えていきたいです。(田中)



初めまして、今年度入社しました山野です!今回、「楽器と木」コーナーを担当させて頂きました。高校卒業から随分経ちますが、去年から母校吹奏楽部のOBOG楽団の演奏会に出演しています。やはり大勢での合奏はいいもので、高校時代の演奏とはまた一味違う演奏を楽しみながら、他の楽器の音色の違いも聴き比べ中です。(山野)

cue

05

【cue(キュー) = 手掛かり、きっかけ】

発行日 2017年10月1日
編集長 西村公孝
デザイン 鈴木信輔(ボード)
イラスト 鈴木志穂 [P17]
発行 朝日ウッドテック株式会社

小さいけれど良く響く楽器

中学、高校と吹奏楽部に所属し、朝から晩まで練習に励んでいました。私はフルート担当でしたが、楽器の構造がほぼ同じである事から、フルート奏者も場合によってはピッコロを演奏します。ピッコロは非常に良く通る高音が特徴的なので、バンドの中では責任重大!ミスをするとうるさくなります…。私も、中学校の体育大会では行進曲をピッコロで演奏しましたが、みんなが行進しやすいリズムには細心の注意を払ったものです。今回はそんな「ピッコロ」について、ご紹介したいと思います。

ピッコロ (Piccolo) とは

ピッコロは、フルートと同じ形をした木管楽器ですが、そのサイズは小さくフルートの丁度半分程度です。音域はフルートよりも1オクターブ高く、煌びやかで可愛らしい音色が特徴です。

木管楽器というと木製の楽器だと思いがちですが、木管楽器の定義は「唇を振動させて音を出す管楽器」だそうです。そのため楽器の材質は関係なく、金属製のものが多いフルートも木管楽器に分類されるようです。フルートの仲間であるピッコロも、木製や金属製など、様々な材質で作られています。

金属製と木製の音色の違い

この材質の違いによって楽器の音色も変

わってくると言われています。木製は、柔らかな音色と豊かな響きが特徴で、オーケストラの中でも強すぎず調和しやすい音色が得られます。木材にはグラナディアラを使用しているピッコロメーカーが多いです。金属製は木製に比べて音色が鋭くなります。また、金属製にはさらに銀、白銅と2種の材質があり、銀製は銀特有の豊かな響き、白銅製は銀製に比べ固めの音色になりますが音抜けの良い響きが特徴です。因みに、仲間であるフルートも19世紀までは木製が主流でした。ピッコロよりも音域が低いフルートは音が目立ちにくく、オーケストラの中でより大音量で演奏できるように、金属製のものが主流となったようです。

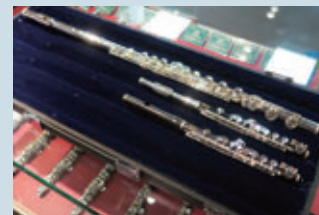
木製ピッコロ

フルートは時代と共に金属製が主流となりましたが、もともと高音域で音が目立ちやすいピッコロは、柔らかい音色の木製が現在でも主流です。使用されているグラナディアラという木材は、アフリカ原産で心材が黒い硬い木であり、比重が1.2と重く水にも沈んでしまいます。楽器を加工する際に、多くの穴を開けたり、キイと呼ばれる金属部品を取り付けたりする為、その衝撃と重さに耐えられる硬い木が使われています。また、音色や温度・湿度の変化が少ないなどの特徴もある為、非常によく使用されています。材質による音色の違いをぜひ楽しんでみてください。

(文・山野)



①17世紀の木製フルート



②木製ピッコロ、金属製ピッコロ、フルート。



③グラナディアラの断面

【写真協力】 ②三木楽器株式会社 ③Wikipedia より